



「生きがい・ふれあい・助け合い」

郷づくり情報

第 18 号 平成30年 1月19日発行
発行者 大山郷づくり協議会
事務所 大山新80番地 (大山ファミリーの郷)
☎ 506-7161

いきいき塾 (参加者募集)

大山地区の高齢者のみなさん
お元気でお過ごしですか？

- 最近、体力に自信がなくなった。
- 人と出会う機会が減った。
- 外出がおっくうになった。

と、という方は「いきいき塾」に参加して、「からだ」と「こころ」の元気を回復させていきましょう！

～参加者の声～



体操の効果を実感した声が届いています！

いきいき塾は市からの委託を受けて、高齢者の元気回復、介護予防の教室として実施しています。週1回、6カ月通って体操を行う教室で、手首・足首に重りをつけ、歌に合わせて、手足をゆっくりと動かす体操等を行います。

- 毎 週 月曜日 午後1時30分～3時30分 (変更されることもあります)
- 場 所 神田荘 (必要な方には送迎もあります)
- 費 用 1回 250円 (所得により減免制度があります)
- お申込み 集落自治会長様にご相談ください。

また、福祉部会では、高齢者の福祉サロン等を、自治会や団体で開設した場合に、活動を支援するための活動助成金を交付しています。

■ お問い合わせ 大山郷づくり協議会 TEL 506-7161 (月・水・金の午前中)

福祉部会長 俣野孝一

波賀尾山登山を実施しました

郷づくり協議会元気部会では、昨年11月19日(日)にふるさとウォークとして波賀尾山登山を行いました。

みぞれが降るあいにくの天気でしたが、山頂では、宝探しやビンゴゲームを行い楽しい一日となりました。

山頂は、地域おこし協力隊の小牧隊員と有志により雑木等を伐採し、見晴らしが大変よくなっています。ぜひ、波賀尾山に登ってみてください。



住みやすい大山の在り方を協議

昨年、11月10日(金)大山小学校ふれあい館で、篠山市社会福祉協議会主催のもと、大山地区福祉会議が開催されました。

参加者は、自治会長、民生委員児童委員、民生児童協力委員、福祉委員、大山郷づくり協議会、社会福祉法人連絡協議会で、地域のいいところは継続してより広め、また課題等は地域のみなさんとともに解決に向けて協議を行うことを目的に、すでにある地域の宝(いいところ)は、どのようなものがあるのか。

また、これから必要になってくる仕組みはどのようなものがあるのかを話し合いました。

今後は、課題解決に向け、どうすれば実現できるのか、検討を重ねていくことにしています。



(グループワークの様子)

《 5つのグループに分かれて意見を出し合いました。参加者から出た主な意見を紹介します。 》

◎地域の気になること

- 送迎を頼みたいが、事故が心配で頼みづらい。
- 地域の人の顔が見えづらくなった。プライベートのことは聞きづらい。
- 一人暮らしの方が増え、外出も少ないので健康面等が心配。
- 福祉の人材、福祉事業への参加者が少ない。
- 人の世話になるのを気にしている人が多い。
- 隣近所以外の方とほとんど会う機会がないので、特に一人暮らしの方の様子がわからない。
- 近くに食料品店がなく、徒歩の方に不便である。
- 高齢化と人口減少で村行事や伝統行事に支障が出てくる。
- 人々の仲間づくりの意識が感じられなくなっている。
- 空き家が3戸あり、うち2戸が管理できていない。
- 休耕田が増えている。自治会内ではなかなか管理ができない。
- 老人会の入会者が少なくなっており、老人会が衰退するのではないか。
- 老人クラブがなくなった地域もある。
- 地域の95%が土砂災害危険区域のため、災害時の避難路が確保できない。

◎あったらいい仕組み、資源

- 各自治会で運転できる人を作って、送迎できるようにする。
- 移動手段の確保のために、定年退職者に活躍してもらう。必要経費は、国、市が負担する。
- 交通手段に困っている高齢者に市の定期的な市バスを運行。
- 用事をしに行くのではなく、先方が移動してもらう。(例) 移動スーパー、移動銀行
- 自治会長と民生委員の連携及び情報共有。
- 電話による困りごと相談センターの設置。
- 小・中学生等地域の児童及び介護の専任者が地域おこし協力隊のように地区に入り込む。
- 全員が参加できるような行事。例えば、夏祭りなど
- 移動のコンビニエンスストアに回ってもらう。
- 防災ラジオの全戸配布。
- 防災組織の充実。(昼間の時間帯)
- お弁当の配達。